

専修大学のキャリア教育 —社会と大学の間の学びサイクルの活性化—



専修大学
キャリアデザインセンター 主任
堀野 賢一郎



1 キャリアデザインセンターの役割

専修大学は、21世紀ビジョン「社会知性の開発」のもと、専門知識を核に社会の課題に主体的に取り組むことができる実践力の育成に取り組んでいる。

キャリアデザインセンターは、社会的要請（①雇用環境、②人材育成、③選抜肢の多様化）と学生の気質の変化（①あいまいな進学目的、学習意欲の低迷、②自立性の欠如、③将来に対する意思決定の先送り傾向）を背景として、2005年に設置された。入学直

後からキャリア形成への意識を啓発し、4年間の学問探求と社会経験を通じて働くことの意味を考え、自ら進むべき進路を明らかにすること、それを実現するための能力の養成を目的としている。キャリア教育の推進には「全教職員が課題を共有し、一体となって取り組むことが不可欠」との考えから、学部教育と深くかわる教育支援機関として、就職課とは別組織としている。

2 キャリア支援プログラムの概要

キャリアデザインセンターでは主に、インターンシップ・各種講座・キャリアカウンセリング・心理検査等を実施している。

特徴的なプログラムに、ベンチャービジネスコンテストと課題解決型インターンシップがある。14回目を迎えたベンチャービジネスコンテストは、ビジネスプランを競うことを通じてア

ントレプレナーシップを養成するもので、起業家を審査員に招くプレゼン大会は、毎回白熱したものとなっている。課題解決型インターンシップは、川崎市等地元企業の協力により、地元企業や自治体抱える現実の課題に、学生が社会人とともに取り組むもので、教育活動を通じて大学の社会貢献も担っている。約半年間の活動を通じて、実践的能力が身につくため、多くの学生が参加する人気プログラムである。いずれも社会人と学生が真剣に向き合う貴重な場である。

これらのプログラムを下支えする取組が、キャリアカウンセリングとWebキャリアノートである。キャリアカウンセリングは、ここ数年利用者が急増しており、学生相談や就職相談と並ぶ個別相談として定着しつつある。Webキャリアノートには、目標や日々の気づきを記録する機能があり、自分の価値観や興味関心を少しずつ明らかにすることができ、学生生活には迷いや挫折がつきものであり、多くの学生が漠然とした不安を抱えている。個人の成長に配慮した継続的な支援と内省を促す仕組みが欠かせない。

3 キャリア教育の体系化

2010年度文部科学省「就業力育成支援事業」選定以降は「キャリア教育の体系化」に着手している。キャリア教育で育成する能力を洗い出し、プログラムの適正な配置を目指すものである。教員と職員で構成されるワーキンググループが中心となって、これま

で「意識・能力要素の抽出」「質問紙による効果測定」「ルーブリック評価」等を行ってきた。各プログラムの教育効果が明確になり、効率的な改善につながるが見込まれる。

新しい授業やプログラムも誕生している。導入教育科目「キャリア入門」は、意識・能力要素に基づいて構成され、キャリアと学業に対する動機づけにおいて重要な役割を果たしている。課外では組織や社会を牽引するために必要な能力の体得を目的とした「リーダーシップ開発プログラム」を開始した。プログラムは、毎週1回の講座のほか、学生を複数のチームに分け、それぞれにボランテアや企業での事業提案といったテーマを課し、実践を通じてリーダーシップを養成する内容としている。

4 事務組織の連携

今年度からはキャリア支援に深くかわる事務組織の連携を強化している。既得の組織的資源を双方向的に有効活用し、進路支援の強化・充実を図ることが目的である。効果的なガイダンスや情報共有の方法からLGBTへの対応といった幅広い議論がなされている。

社会の変化にすばやく対応するためには、相互理解に基づく、有機的な協力体制が欠かせない。それぞれの職員が持つ専門性と多様性から生まれる新しい発想を目的に、学生支援の充実のみならず、職員の「学びあいの場」としても大きな可能性を感じている。